



## 令和6年度全国社会就労センター総合研究大会（富山大会） 分科会におけるテーマ、ポイント、講師・実践報告者

分科会（大会1日目）のテーマ、ポイント、講師・実践報告者をご案内いたしますので、本大会への参加申込にあたり、分科会選択の際にご参照ください。

※ 内容については、一部変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

### ① 生保・社会事業部会

|                |  |
|----------------|--|
| テーマ            | 生保・社会事業授産施設における“有事”に備える“平時”を考える<br>※分科会形式：実践報告&全体討議  |
| ポイント           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生保・社会事業授産施設の特長は、障害の有無を問わず、様々な背景がある多様な利用者を受け入れることにあります。しかし、この特長は、日々の支援はもちろんのこと、災害発生時の支援の難しさに繋がるとい側面も持っています。</li> <li>・ 本分科会は、そのような困難さを抱える生保・社会事業授産施設における“有事”をキーワードに、実際に被災経験のある事業所からの報告やBCPに関する報告などを通して、“有事”に備える“平時”の在り方を学ぶ機会とします。</li> </ul> |
| 実践報告者<br>・ 報告者 | <p>&lt;実践報告者&gt;<br/>田中 優一 氏（北海道／(福)芦別白光舎 芦別白光舎 施設長）<br/>《調整中》</p> <p>&lt;報告者&gt;※BCPに関する報告<br/>荒木 真由美 氏（熊本県／(福)熊本市社会福祉協会 熊本授産場 場長）<br/>関 祥男 氏<br/>（愛知県／(福)名古屋厚生会 名古屋厚生会館クリーニングセンター 施設長）</p>   |
| 持ち物            | <p>✓ 本分科会ではBCPに関する意見交換を行うため、BCPを作成している事業所は、BCP（災害用）を1部ご持参ください。</p> <p>※ BCP（災害用）の策定にあたって、課題となっている事項があれば、ご確認のうえ、ご参加ください。</p>  |

## ② 雇用事業部会

| 未来をみつめる！うちの事業所は地域に必要とされてる？<br>～A型事業所の未来創造図から経営分析手法までも学ぶ～<br>※分科会形式：講義・ワークショップ |  |
|---|--|
| テーマ   |  |
| ポイント  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今般の就労継続支援A型事業に係る報酬改定では、スコア方式における「“生産活動”の配点の増加」、「“生産活動”“経営改善計画（新規）”へのマイナス評価の導入」等の大幅な改定が行われました。</li> <li>・ 今、A型事業所には“経営力”が問われています。障害福祉サービスであるA型事業は“障害者の就労支援”において重要な役割を果たしていますが、その役割を担う上でも“経営力”を磨くことは重要な要素です。</li> <li>・ 本分科会は、A型事業の必要性や重要性は言うまでもなく、A型事業所に求められる“経営力”に着目し、経営の観点から自事業所（就労支援事業）の「数字」分析をもとに、明るい未来を創造する手法を学ぶことを目的に実施します。</li> </ul> |
| 登壇者   | 田中 貴士 氏 (株)S・Yワークス 経営コンサルティング本部 執行役員)  |
| 持ち物   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本分科会では実際に経営分析を行うため、下記の財務諸表をご持参ください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①就労支援事業別事業活動明細書</li> <li>②就労支援事業製造原価明細書</li> <li>③就労支援事業販管費明細書</li> </ol> </li> <li>※ <u>3～5月の各月の延利用者数、職員配置数、開所日数、福祉収入額をご確認のうえ、ご参加ください。また、電卓もご持参ください（スマートフォンの電卓機能でも可）。</u></li> </ul>  |



## ③ 就労継続支援事業部会

| 我々は今、どう工賃向上に向き合うのか<br>～総括所見・実践事例から学ぶ～<br>※分科会形式：講義・対談&実践報告 |   |
|--|---|
| テーマ  |   |
| ポイント   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今般の就労継続支援B型事業における報酬改定では“工賃向上”が強調されました。次期報酬改定までの3年間の取り組みにおいて、“工賃向上”は一つのキーワードです。</li> <li>・ 一方で、我々が“工賃向上”に取り組む意義は何でしょうか？報酬改定では“工賃向上”の方向性は示されていますが、その意義は示されていません。</li> <li>・ 本分科会は、最初に総括所見や一般的意見第8号を基に、我々が“工賃向上に取り組む意義”を考えます。その上で、①工賃向上に取り組んでいる事業所、②工賃向上に取り組む中で課題に直面している事業所から実践報告をいただき、“工賃向上”に繋がるヒントを得る機会とします。</li> </ul> |
| 講義   | 佐野 竜平 氏（法政大学 現代福祉学部 教授<br>／全国社会就労センター協議会 中央推薦協議員）   |
| 対談   | 佐野 竜平 氏（法政大学 現代福祉学部 教授<br>／全国社会就労センター協議会 中央推薦協議員）<br>高江 智和理 氏（北海道／(福)北海道光生舎 理事長<br>／全国社会就労センター協議会 副会長）  |
| 実践報告者  | 今村 健 氏（青森県／(福)義栄会 月見野作業所 管理者）<br>《調整中》（山梨県／(福)ぎんが工房 ）<br>《調整中》  |



## ④ 就労移行支援事業部会

|       |  |
|-------|--|
| テーマ   | 知ろう、聞こう、深めよう～就労選択支援事業の未来予想図～<br>※分科会形式：講義&実践報告&グループディスカッション  |
| ポイント  | <ul style="list-style-type: none"> <li>今般の報酬改定では、令和7年10月施行予定の就労選択支援事業の報酬額を含む概要が示されました。その中で「実施主体の要件」として下記のような記載がされています。           <div data-bbox="485 479 1426 622" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「就労移行支援又は就労継続支援に係る指定障害福祉サービス事業者であって、過去3年以内に3人以上の利用者が新たに通常の事業所に雇用されたもの」</p> </div> </li> <li>この記載からは、就労移行支援事業所が就労選択支援事業の実施機関として期待されていることが窺われます。この期待に応え、利用者から必要とされる事業にするためには、この段階で、就労選択支援事業のことを理解することが重要です。</li> <li>本分科会は、就労選択支援事業の概要を確認し、JEEDが策定したアセスメントシートの説明、令和5年度の就労選択支援事業に係るモデル事業実施状況の報告等を通して、“就労選択支援事業”をより具体的に学ぶことを目的に実施します。</li> </ul> |
| 講義    | 鈴木 大樹 氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部<br>障害福祉課 就労選択支援専門官）   |
| 実践報告者 | 青山 貴彦 氏（島根県／（福）桑友 理事長）   |



## ⑤ 生産活動・生活介護事業部会

|       |  |
|-------|--|
| テーマ   | <p>「生活介護」から「〇〇〇〇」へ<br/>         ～報酬改定から考える将来の在り方～<br/>         ※分科会形式：講義・実践報告<br/>         &amp;グループディスカッション&amp;まとめ（パネリディスカッション）</p>  |
| ポイント  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労継続支援事業（A型・B型）に比べ人員配置基準が高く、手厚い支援を行う生活介護事業所は、“工賃支給”と“利用者に合わせた質の高い支援”を両立しています。</li> <li>・ しかし、名称に“介護”という言葉があることで、誤った認識をされてしまい、利用を敬遠されてしまうケースがあります。就労継続支援事業の利用者の中にも、高齢化・重度化により将来的に、生活介護事業に移行する方がいることも考えられるため、生活介護事業を正しく理解してもらうことが重要です。</li> <li>・ 本分科会では、今般の報酬改定の概要と現状を再確認し、生活介護事業を正しく理解してもらうための取り組みや利用者確保に向けた取り組みに係る協議を通して、生活介護事業を正しく認識してもらえ新しい名称を考えることを目的に実施します。</li> </ul> |
| 講義    | <p>服部 剛 氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部<br/>         障害福祉課 課長補佐）</p>  |
| 実践報告者 | <p>池田 光巳 氏（岐阜県／(福)いびき福社会 理事）<br/>         田中 聡司 氏（宮崎県／(福)風の道 理事長）</p>  |



## ⑥ ぐらす検討会

---

**災害発生時に慌てない！！**

テーマ

“くらしの場”における発災時対応とは？

※分科会形式：実践報告&グループディスカッション

---

ポイント

- ・ 昨今、自然災害（地震、豪雨災害等）の頻度が上がっています。このような環境の中で障害のある方の生活を支援する“くらしの場”（グループホーム・入所施設）には、平時の利用者支援に加え、有事への備えが求められています。
- ・ 本分科会は、“災害発生時に慌てない”ために、過去に自然災害による被害を受けた“くらしの場”（グループホーム・入所施設）の支援者から災害発生時の経験を共有いただき、発災時に必要な対応が何かを改めて確認することを目的に実施します。

実践報告者

川俣 聡司 氏（栃木県／(福)愛光園 稲岡事業所長）※入所施設  
《調整中》※グループホーム

---

